



目次

01. 2023年12月期 決算概要
02. 「ありたい姿2036」に向けた
「中期経営計画2022-2024」の進捗

2023年12月期 決算概要



2023年12月期 連結決算 概略

- ◆ 売上高は海外市場での堅調さ、国内市場も回復、そして円安の好影響もあり、過去最高売上高を更新
- ◆ 営業利益は原材料価格・人件費の高騰などの利益押し下げ影響のなか、売上高伸長による販売差益の増加で28.2%の伸び
- ◆ 当期純利益は不動産売却が寄与し大幅に増加
- ◆ 経常利益、当期純利益も過去最高を更新

【連結】 単位:百万円	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	対2022年	
	4Q	4Q	4Q	4Q	4Q	増減額	増減率(%)
売上高	62,034	55,180	61,894	68,997	74,801	5,803	8.4%
(USD平均レート)	¥109.37	¥106.66	¥109.86	¥130.78	¥140.55	¥9.77	-
売上総利益	31,289	27,310	30,667	33,953	38,446	4,492	13.2%
(売上総利益率)	50.4%	49.5%	49.5%	49.2%	51.4%	-	-
販管費	24,086	21,817	23,146	24,709	26,594	1,884	7.6%
営業利益	7,202	5,493	7,520	9,243	11,851	2,607	28.2%
経常利益	7,580	5,988	8,309	10,128	12,889	2,760	27.3%
当期純利益※	4,436	3,794	5,658	6,951	10,166	3,215	46.3%

(※)親会社株主に帰属する当期純利益

連結業績推移 売上高

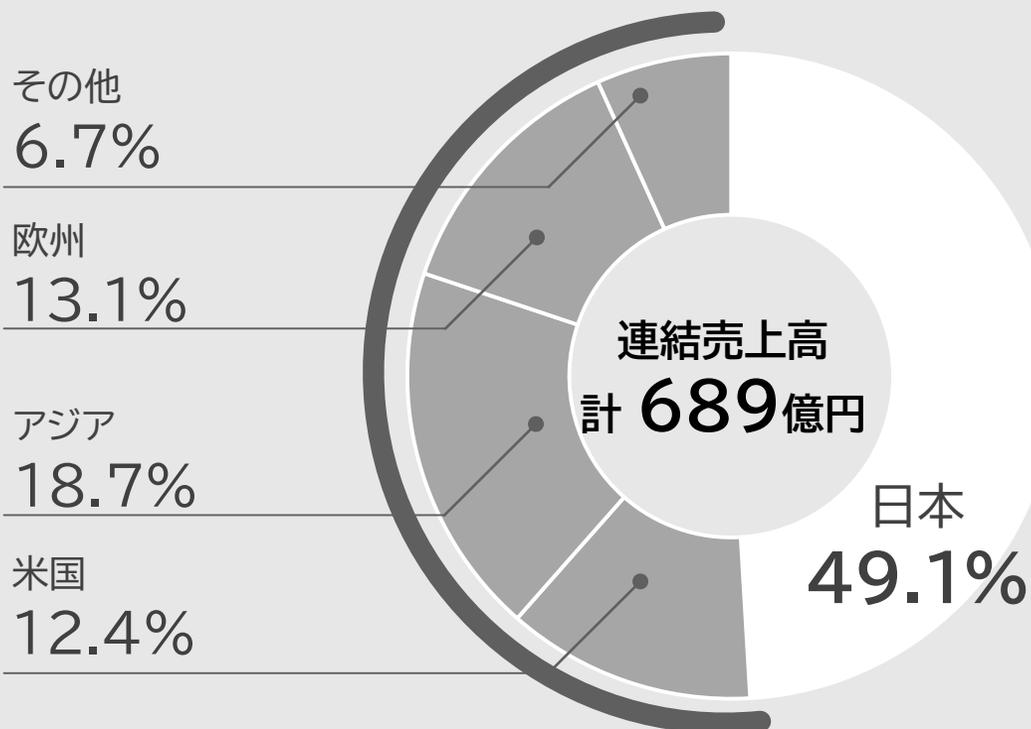
◆ 過去最高売上高を更新



連結売上高 地域別構成比

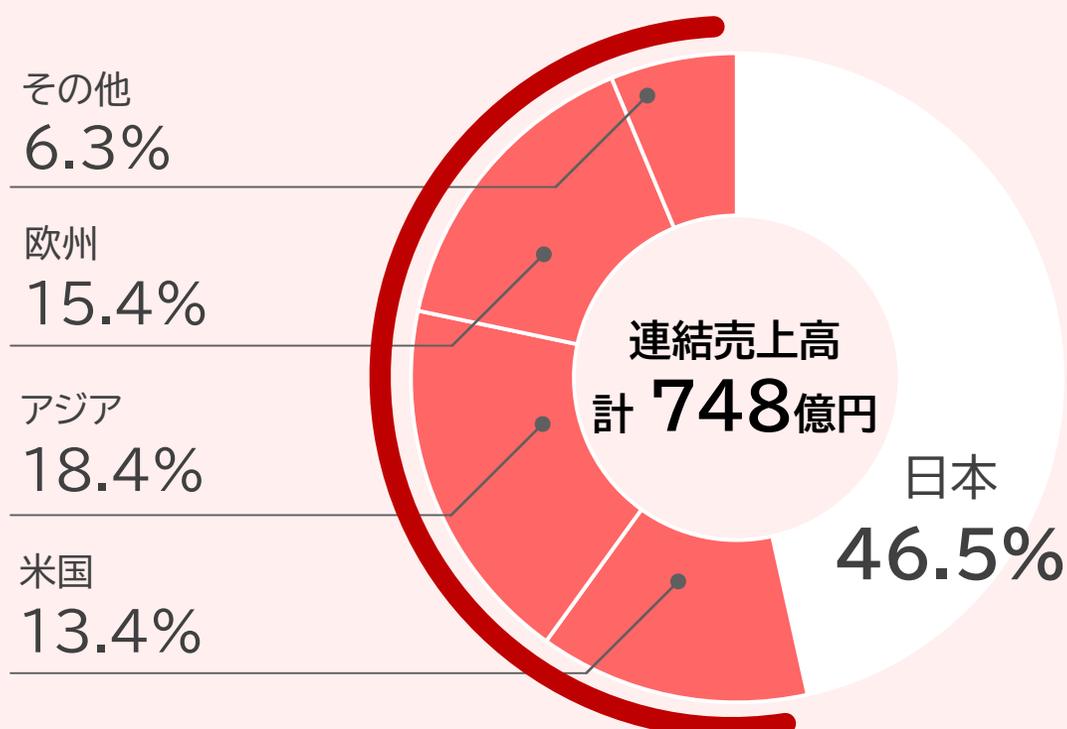
◆ 欧米を中心とした海外市場での売上高が大幅に増加

2022年 1-12月



海外 **50.9%** 国内 **49.1%**

2023年 1-12月

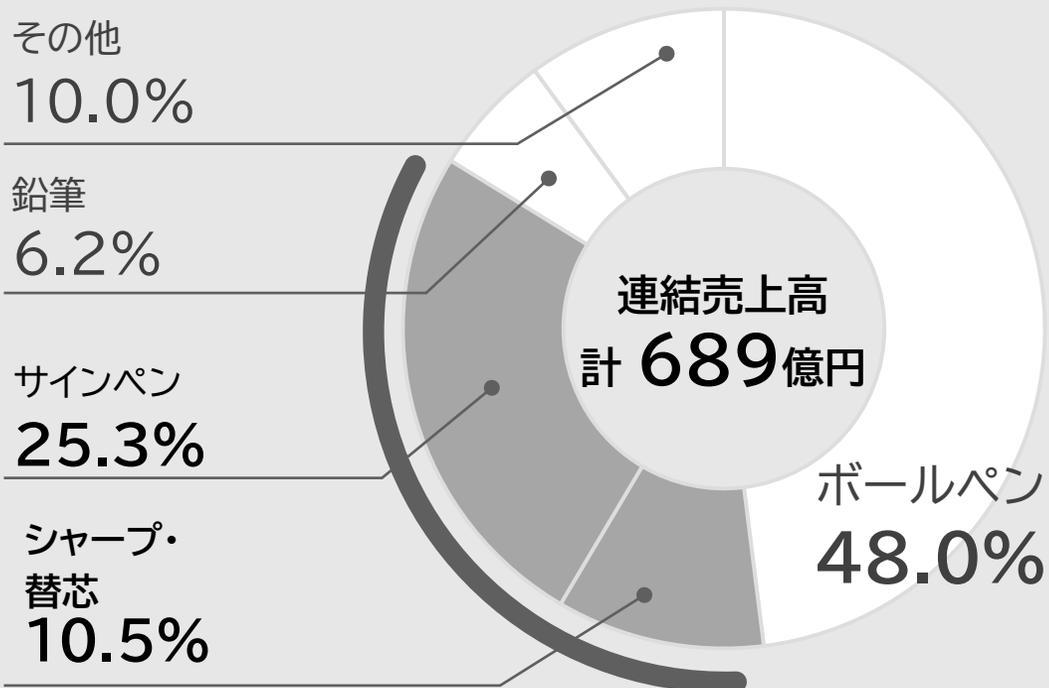


海外 **53.5%** 国内 **46.5%**

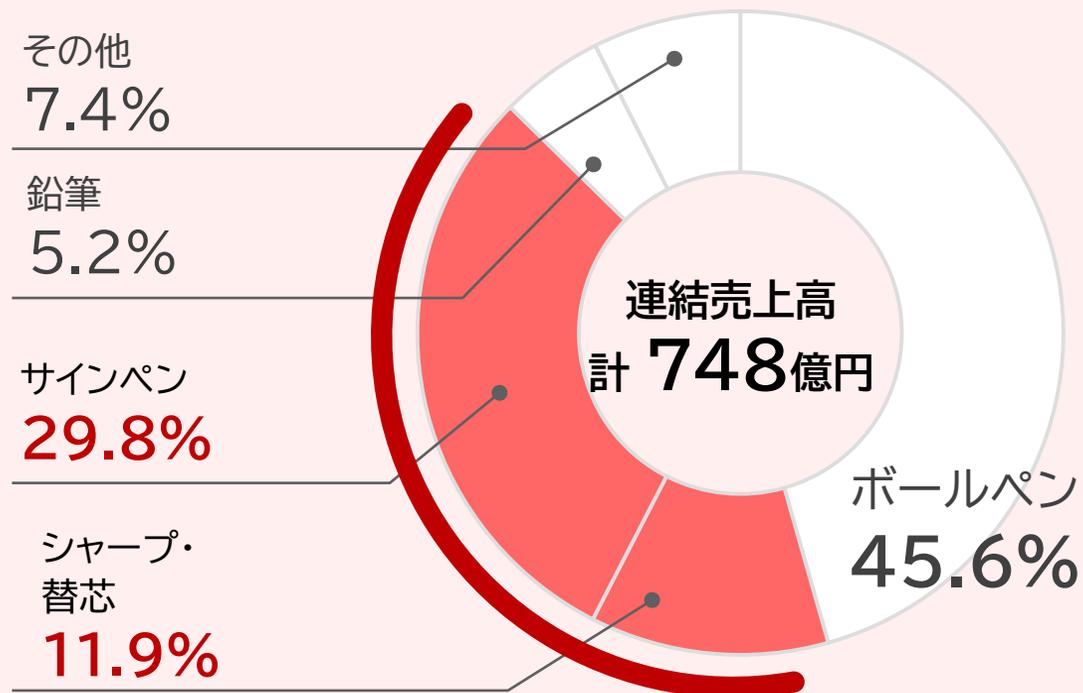
連結売上高 製品別構成比

- ◆ 国内ではシャープペンシル、海外ではサインペンによる市場開拓が売上高を牽引
- ◆ それぞれの構成比が大きく伸びる

2022年 1-12月

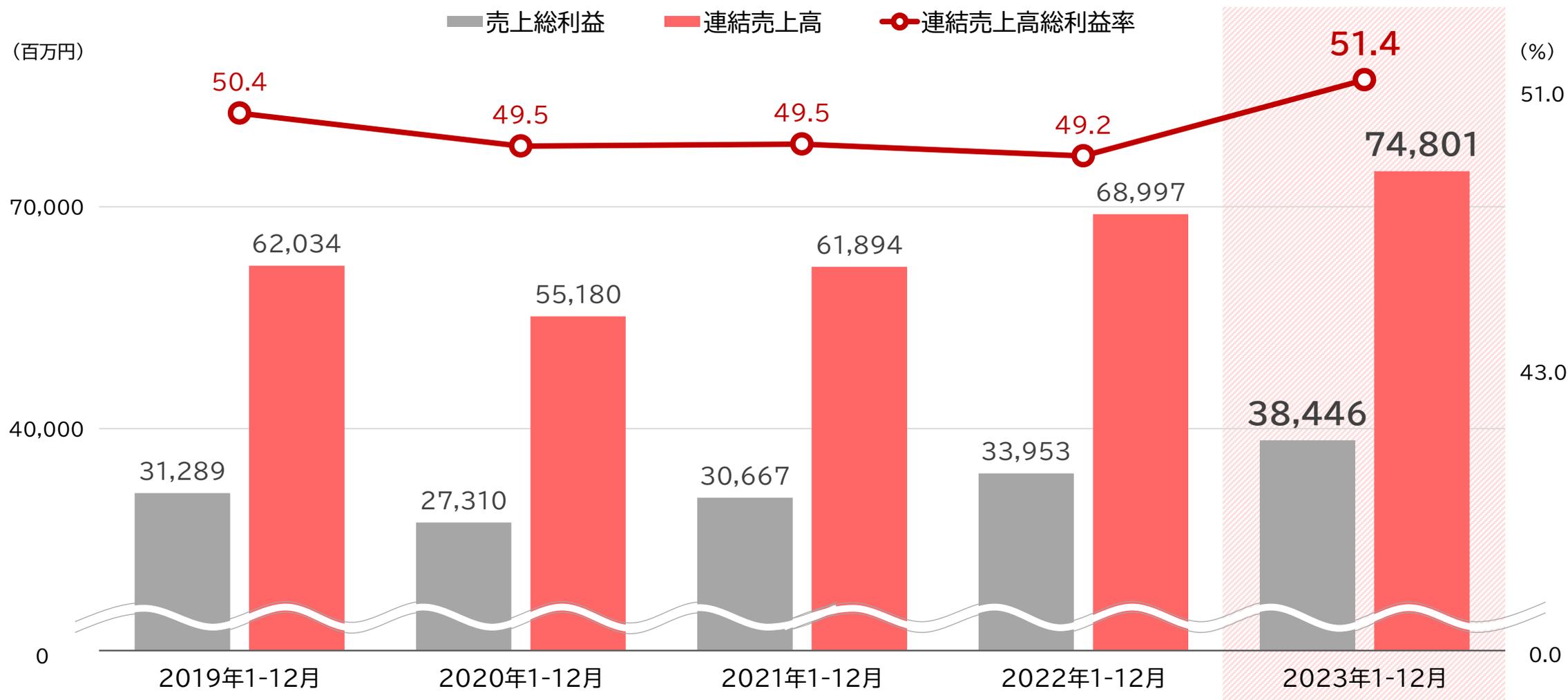


2023年 1-12月



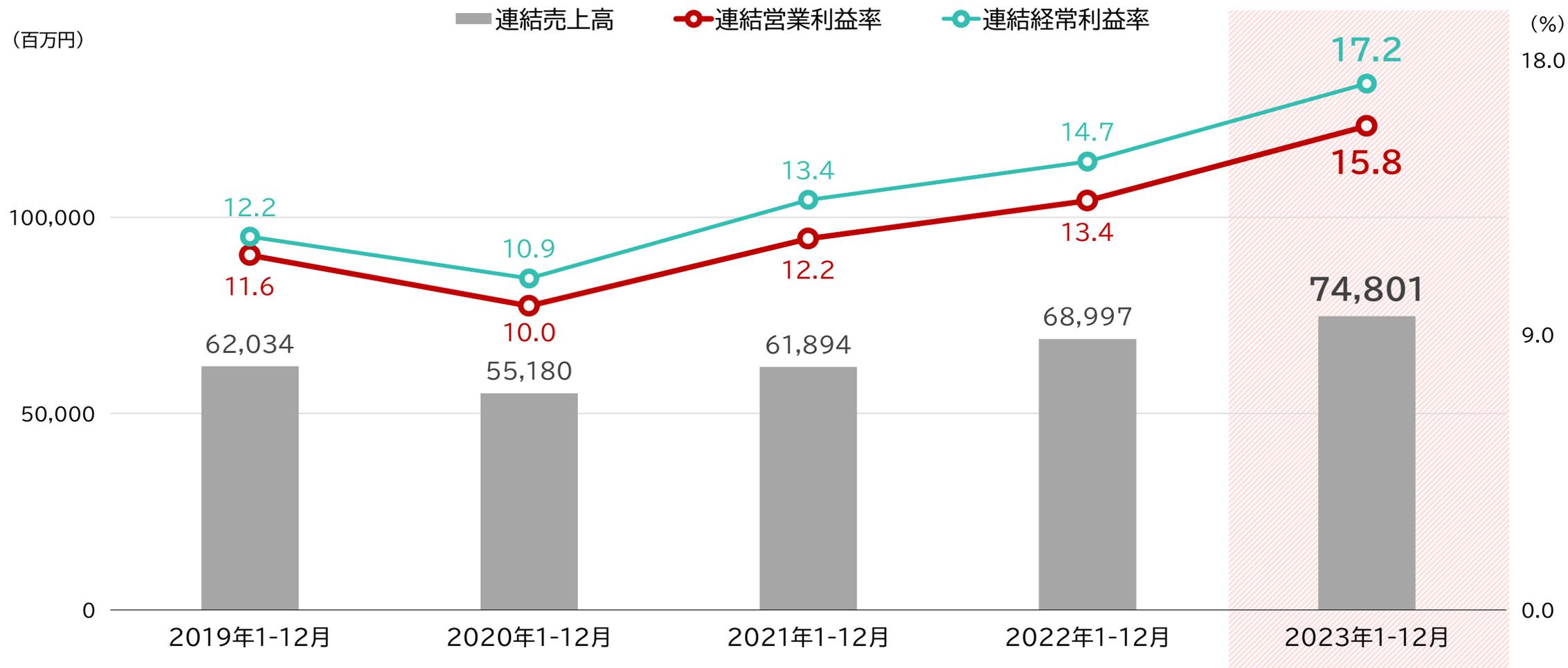
連結売上高総利益率

◆ 販売差益の増加に伴い、総利益率が上昇



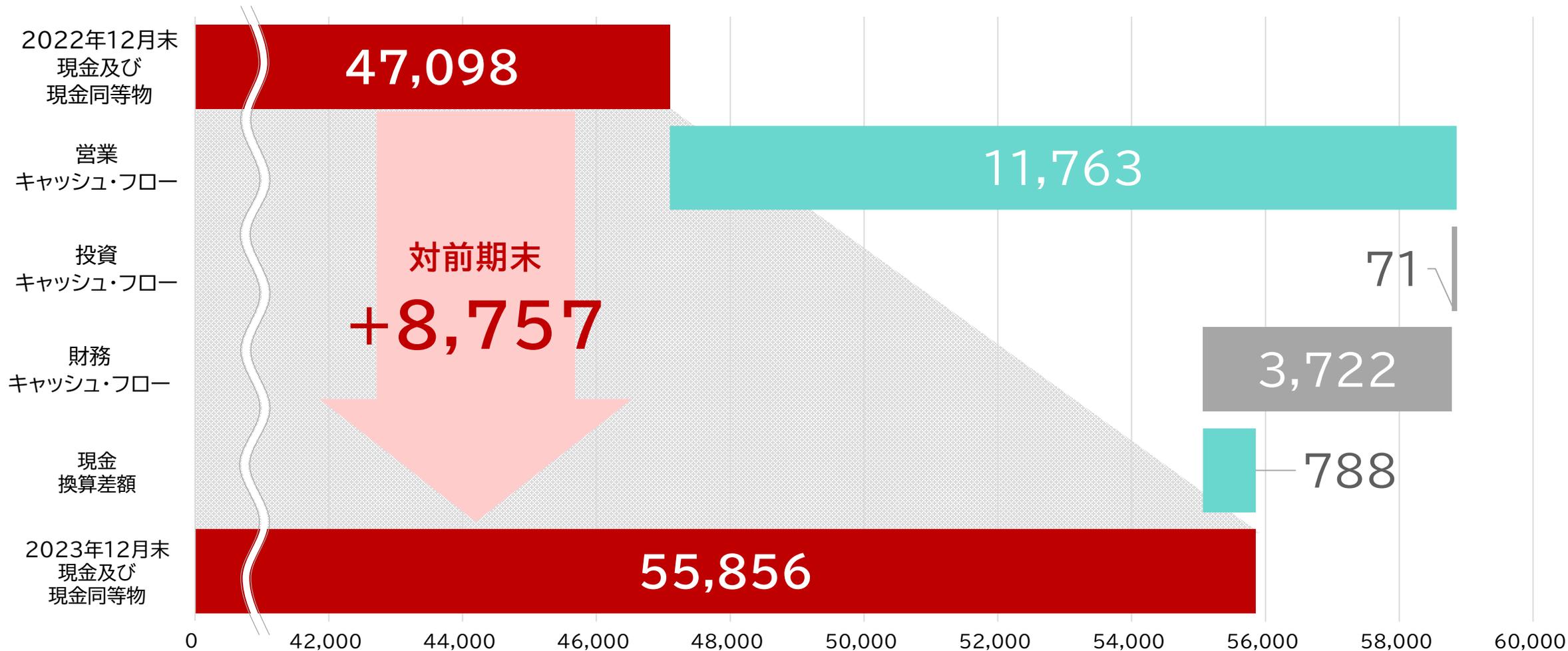
連結売上高営業利益率・経常利益率

◆ 営業利益率・経常利益率ともに順調に推移



連結キャッシュ・フロー

- ◆ 営業キャッシュ・フローの伸びでキャッシュが増加
- ◆ 筆記具事業のグローバル化・新規事業の成長加速のために、キャッシュを活用していく

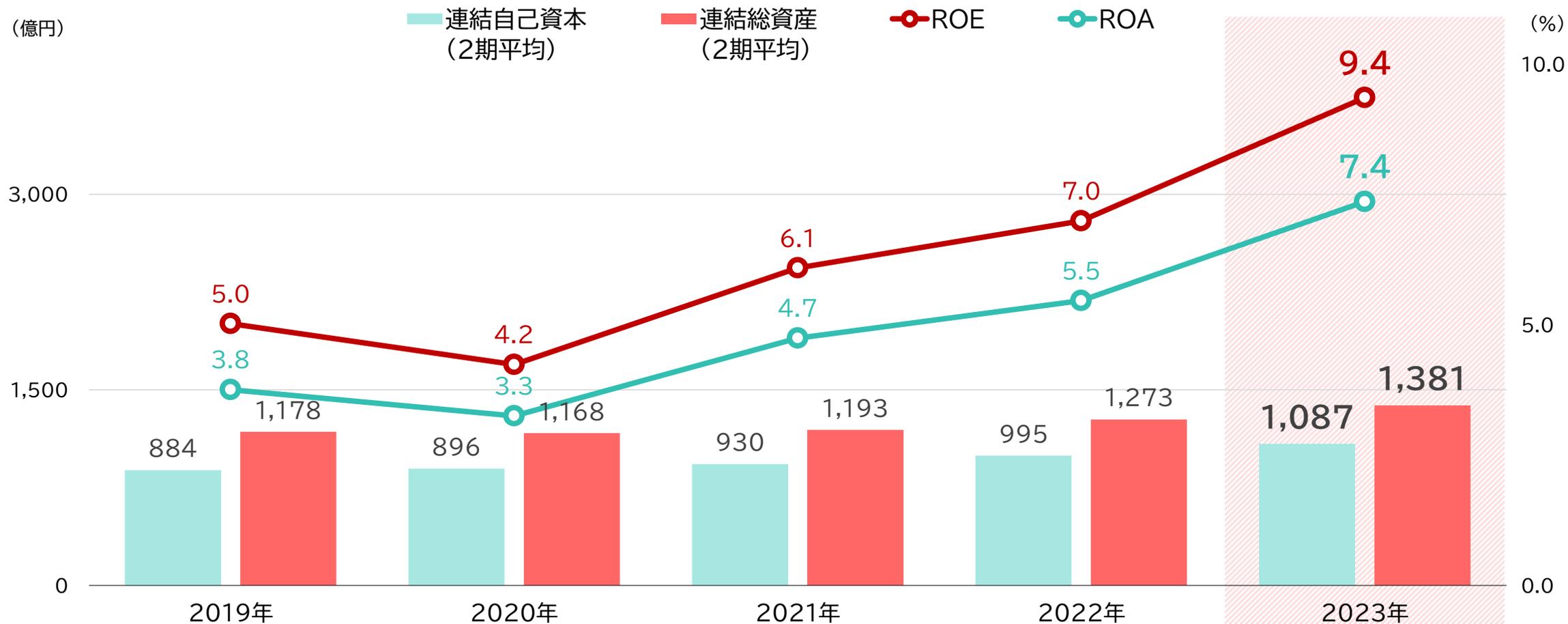


(※)キャッシュ・フロー計算書では定期預金残高は表現されませんので、BS「現金及び預金」とは一致しません。

(百万円)

自己資本純利益率(ROE)・総資産純利益率(ROA)

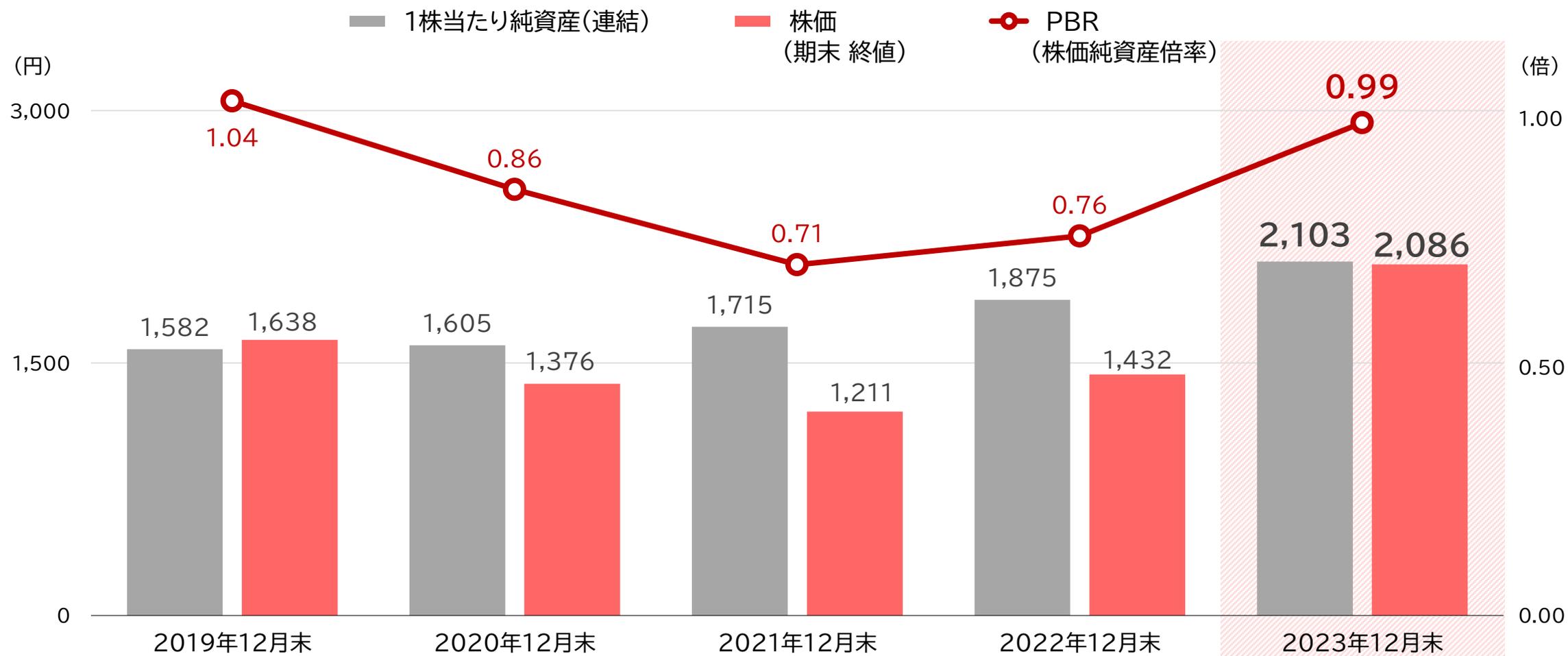
◆ ROE・ROAは上昇基調



(※) ROE = 連結純利益 ÷ 2期平均自己資本 (※) ROA = 連結純利益 ÷ 2期平均総資産

1株当たり純資産 / 株価純資産倍率

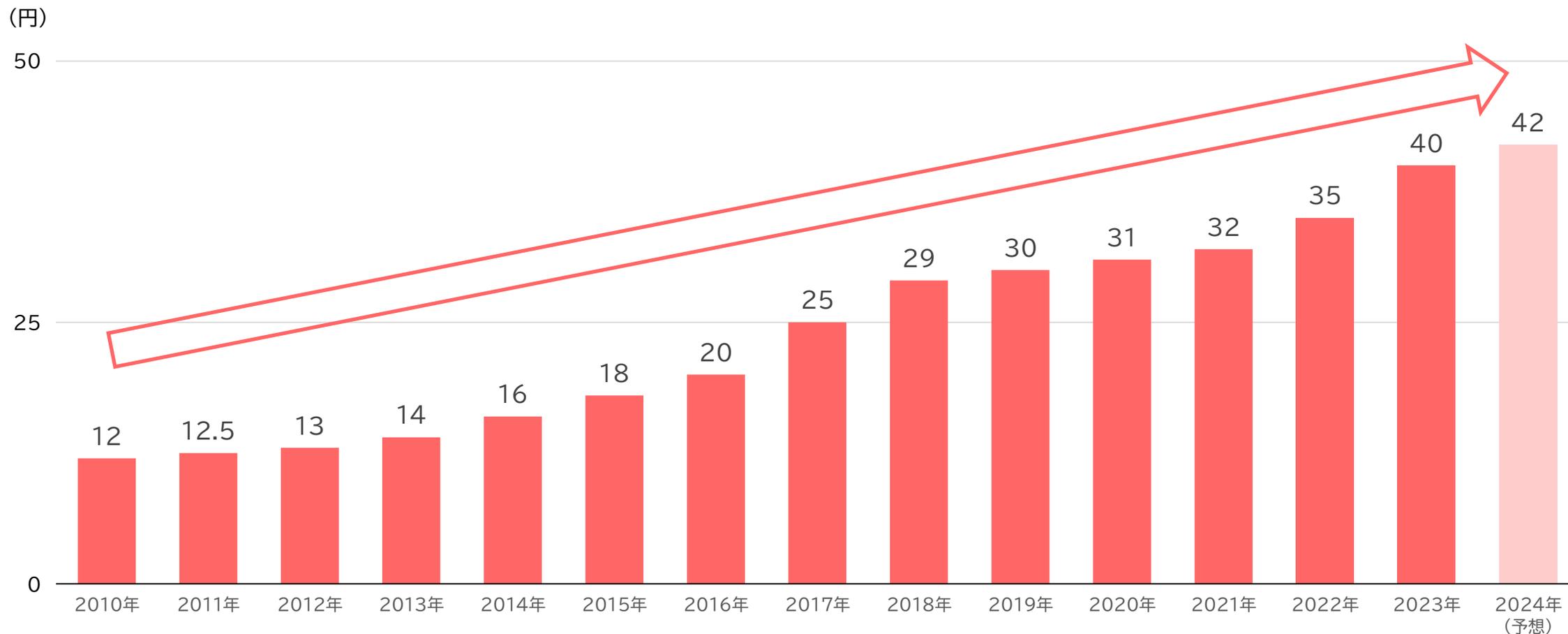
◆ PBR改善も1倍以上を目指した活動を継続



(※)PBR(株価純資産倍率) = 期末株価 ÷ 連結1株当たり純資産

配当金

- ◆ 配当は15期連続増配を予定
- ◆ 2023年12月期より特別配当を10年間継続予定



(※) 2017年7月1日を効力発生日として普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を実施したため、2010年の期首に株式分割が行われたと仮定して算定

現状の分析

◆ 期末PBR/ROE/PERの推移

	2019年 12月期	2020年 12月期	2021年 12月期	2022年 12月期	2023年 12月期
PBR	1.04	0.86	0.71	0.76	0.99
ROE	5.0	4.2	6.1	7.0	9.4
PER	21.0	20.4	12.0	11.4	11.2

※12月末時点

- 連結売上高は過去最高を更新
- 当期純利益は過去最高を更新
- 2月に自己株式取得を実施

◆ 考察

- 当社の資本コストは5~6%、直近のROEは資本コストを上回るが、当期を除きこれまで一般的な基準となる8%は下回っていた
- また、PBRは1倍前後の状況となっている

改善に向けた方針

主力事業である筆記具事業のさらなる拡大と利益創出を進め、
継続的にROE8%以上を目指していく
また、資本の適正化、安定配当の継続やIRの充実を図り、
PBR1倍以上を目指していく

今後の取り組み

◆ 方策① 筆記具事業の強化

主力事業である筆記具事業のグローバル化を推進、販売・供給・マーケティング機能を一層強化し、海外市場を中心に事業拡大、利益創出を目指していく

◆ 方策② 資本の適正化

ノンコア資産の有効活用、棚卸資産の整理、適切なタイミングでの自己株式の取得等資本の適正化を進めていく

◆ 方策③ 安定配当の継続とIR資料の充実

財務状態、経営成績、配当性向等を総合的に勘案しながら、安定的な収益を基盤とした安定配当を継続実施していく
また、IR資料の充実(資料の英文化含む)も図っていく

「ありたい姿2036」に向けた
「中期経営計画2022-2024」の進捗



ありたい姿2036と中期経営計画2022-2024

- ◆ 創業150年にあたる2036年を目標とした「ありたい姿2036(長期ビジョン)」と、それに向かうための「中期経営計画2022-2024」の概要

中期経営計画 2022-2024

コーポレートブランドコンセプト
違いが、美しい。



売上高内訳
・海外筆記具事業 410億円
・国内筆記具事業 300億円
・新規事業等 70億円

創業150年 世界一の表現革新カンパニー



売上高内訳
・海外筆記具事業 700億円
・国内筆記具事業 300億円
・新規事業等 300~500億円



2023年

ありたい姿実現に向けた戦略が奏功し
またインフレ・為替影響の後押しもあり
2023年度の売上が大きく伸長

2024年

中期経営計画目標を
上方修正

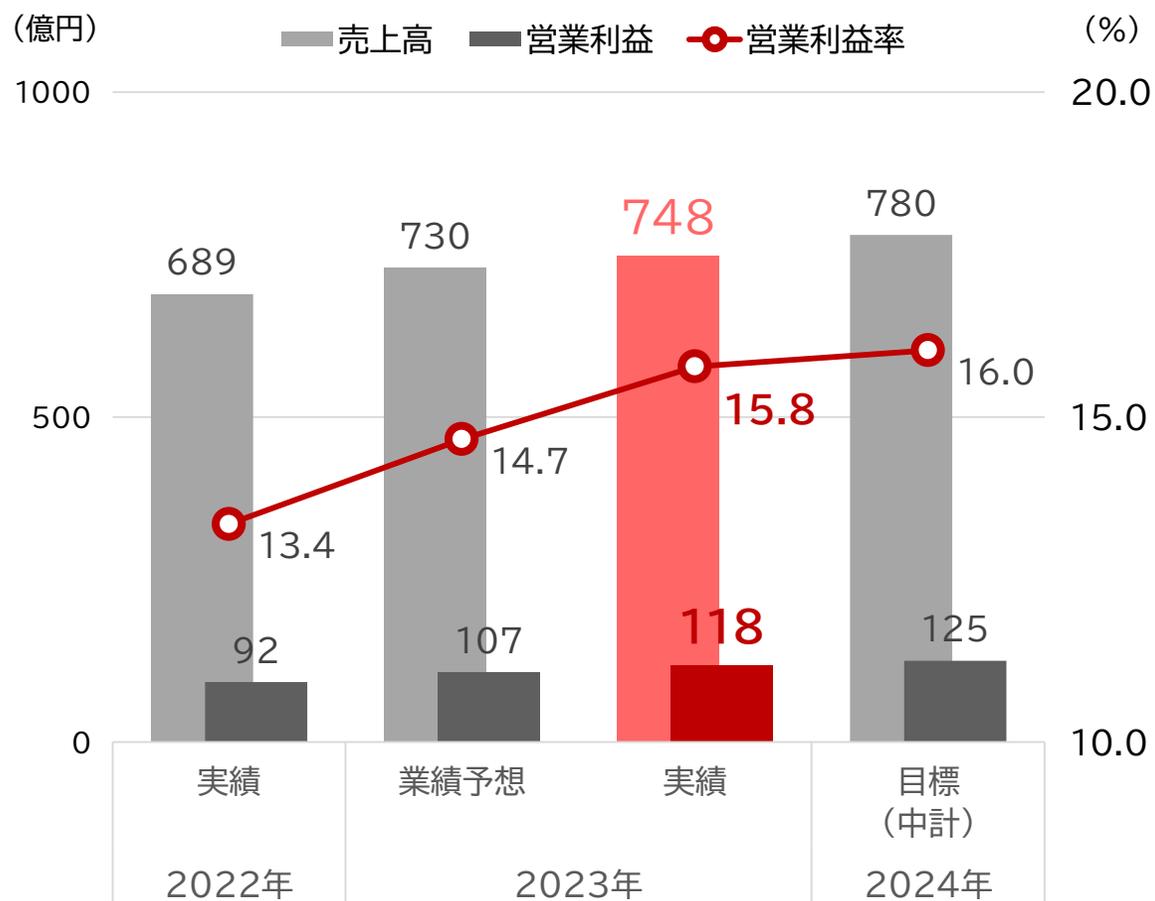
2024年
中期経営
計画目標

売上高	780億円
営業利益	125億円
営業利益率	16.0%

中期経営計画 2022-2024:進捗

- ◆ 売上高は過去最高を更新
- ◆ 筆記具事業:グローバル戦略が奏功し、売上を大きく伸長

- ◆ 2024年は売上高・営業利益ともに過去最高を目指す
- ◆ 筆記具事業:多様なニーズを捉え、さらなる海外の販売体制の強化を推し進めシェアを拡大
- ◆ 新規事業:ありたい姿実現に向けて、投資・種まきを継続



連結 財務指標		2022年	2023年	2024年
		実績	実績	目標
売上高	億円	689	748	780
筆記具事業売上高	億円	620	682	710
海外筆記具事業	億円	346	395	410
国内筆記具事業	億円	274	287	300
新規事業等売上高	億円	69	66	70
営業利益	億円	92	118	125
営業利益率	%	13.4	15.8	16.0

基本方針 uni re-design

重点方針

筆記具事業のグローバル化

- ・グローバルフォーカスブランド(GFB)の推進
- ・グローバルに事業体制を構築

- ・ 海外売上伸長、海外比率53.5%
- ・ POSCA売上好調
- ・ 海外販売会社体制の構築は計画通りに進行
- ・ JETSTREAM、 Kultogaを柱に国内シェア上昇
- ・ 海外拠点と連動した新商品開発

新規事業をグロースステージへ

- ・事業ドメイン起点での事業創出
- ・化粧品・産業資材事業拡大

- ・ 化粧品事業は戦略が実り新規顧客獲得
- ・ 産業資材事業は筆記具で培った技術のオープンイノベーションをグローバルに推進

サステナブルな体制構築

- ・自然環境・社会との共生
- ・当社グループの持続的成長

- ・ 環境配慮型商品の開発
- ・ 社会貢献活動の強化

- ◆ 日本市場においてシェアを拡大しながら、海外での体制を強化中。引き続き高い成長を目指す

欧州市場

欧州拠点の体制強化・ブランドの統一
欧州統括倉庫稼働による競争力向上
環境対応商品の投入と現地マーケティング強化

日本市場

高付加価値製品の販売に注力
合理化・効率化により収益性向上

中国・東南アジア市場

上海拠点組織再編
中国市場での販路整備
現地ニーズに沿った商品開発

北米市場

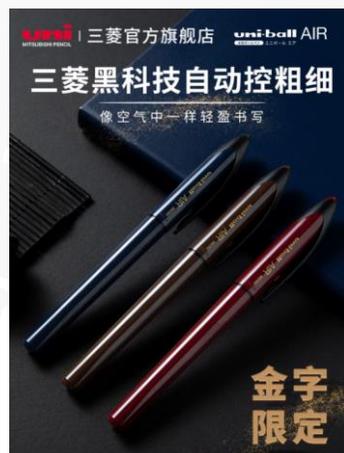
uni-ballブランドへの投資継続
ECルートへのプロモーションを強化
営業マーケティング組織拡充

欧州市場向け ボールペン



環境対応商品

中国市場向け ボールペン



美文字需要に応える
機能性商品

日本市場向け シャープペンシル



世界初
自動芯繰り出し機能付き

欧米市場向け サインペン



プロユースからホビーまで
対応できるラインナップ

◆ これまでの筆記具事業以外の事業強化に向けて、種まきに注力



- ◆ 社会と当社のサステナビリティを両立するため、さまざまな取り組みを実施

ESG



- サステナビリティ推進委員会を設置
- ESGの3つの視点から部会を設置し、活動方針の策定や各分野のモニタリングを実施
- 環境省が推進する水平リサイクル実証実験に参加

人的資本



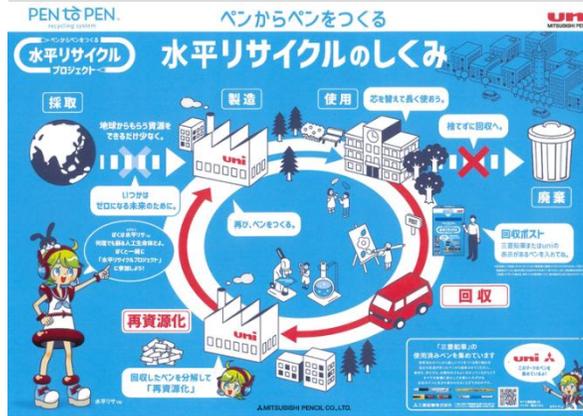
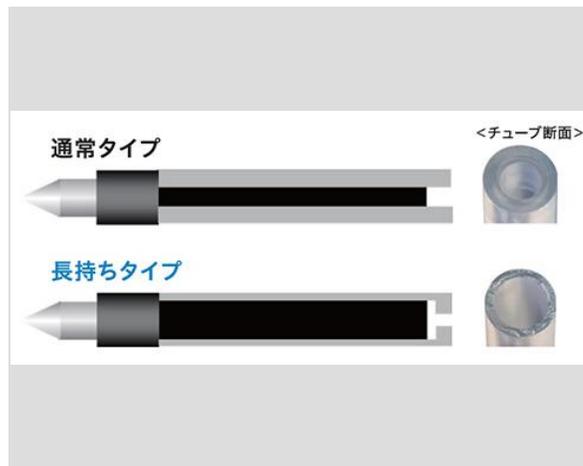
- 従業員の創造性を高める人事制度改革を実施
- 海外駐在者を増やしグローバル人材育成を推進
- 異業種交流を活用した女性中堅社員を育成

企業価値



- 株主還元強化
14年連続の増配と自己株式の取得を実施
- 収益性向上を図るため
固定資産の見直しを実施
- 2023年12月期から10年にわたる特別配当の実施

環境配慮型商品の開発



社会貢献活動を強化



違いが、美しい。

uni
MITSUBISHI PENCIL

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想となります。従って、潜在的なリスクや不確実性が含まれており、実際の業績はさまざまな要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。